

加瀬俊一 （たせ じゅんいち） 外交官。明治二十七年一月十日（百子菟野生れ、平成十六年五月歿（一九〇四—二〇〇四））。東京商科大学中退。大正十四年外務省入省。アメリカの留學してハーヴァード大学大学院修了。外相秘書官、北米課長等を経て、戦後降伏調印時の全權随員、國連大使など。鹿島出版會會長。文筆も長じた。評論家加瀬英明の父。



著書 『（別れ）英帝國二十年史』（合著・毎日新聞社編、昭和十八年二月十五日毎日新聞社）、『コミナリー號への道程』（昭和二十六年四月五日文藝春秋新社）、『歴史の虚實—世界外交秘話』（昭和二十七年六月二十日要書房）、『外交つれづれ草』（内題「外交徒然草」昭和二十年九月十五日河出書房「河出新書」）、『第二次世界大戦秘史』（昭和二十一年二月二十八日角川書店「角川新書」）、『酒』（合著・鹿野信太郎編、昭和二十二年四月二十日春陽堂書店）、『現代史の謎』（昭和二十七年八月一日文藝春秋新社）、『吉田茂の遺言』（昭和四十二年十一月二十日読売新聞社）、『歴史の傷痕』（昭和四十二年二月十五日読売新聞社）、『ロシア革命の現場証人』（昭和四十二年十一月二十日新潮社「新潮選書」）、『ナポレオン—その情熱的生涯』（昭和四十四年九月二十日文藝春秋）、『私の現代外交史—対決から対話への潮流』（昭和四十六年七月二十日新潮社）、『評伝アドルフ・ヒトラー』（昭

和五十二年と八月二十日要書房）等。

評伝アドルフ・ヒトラー

評伝 アドルフ・ヒトラー

加瀬俊一

加瀬俊一

独裁者の野望の軌跡

ドイツ第三帝国は1000年つづくヒトラーは兼語したが、たった12年で瓦解したのは何故か。『歴史の現場証人』の著者が「新資料」を駆使してその曲折を明らかにする「ヒトラー伝」の決定版

文藝春秋刊 0023-83462-7584 定価1800円

（二十五年文藝春秋）等。